

平成 26 年度 第1回 千葉県ダブルダッチ協会 超会議 議事録

開催日時:平成 26 年 6 月 8 日 13:30~17:00

会場:翔洋学園高等学校千葉校

参加者 16 名

りょー・ユナミ(津田沼高校びょん)
 小沢(一大DDS)
 ナガスケ(東京ガッツ)
 トシタカ・カズ(千葉大 AX)
 高(柏なわとびクラブ)
 タク(超三流)
 世古・長谷川(翔洋学園高等学校)
 みわ(AKI ファミリー)
 西川(関東第一高等学校ダブルダッチ部保護者)
 草野(KENSHIN ダブルダッチクラブ)
 ロン(麗澤大 ReiB)
 タカ(AT-OUT/groovy オーガナイザー)
 しょーいち(超三流/ダブルダッチスクール STEPUP)

※通称表記・敬称略

議事内容

1. 会長挨拶
2. 自己紹介
3. 前回超会議の振り返り
 - ・練習環境／ ・大会や出演機会／ ・都内シーンへの参加／ ・閉鎖的／ ・練習環境のシェア／ ・新しいイベント／ ・敷居の低い場づくり／ ・学生が教える側に／
 - ・イベント等の情報一元化／ ・定番ネタの容易／
 ⇒ ①連携とシェア(練習、イベント、依頼など)
 ②外部への露出機会をつくっていく
4. 課題
 - ・今年度活動内容の選定
(既定:6月、10月、2月定例会／チャレンジダブルダッチ in ちば(年度末))
 - ・外部からの依頼に関する報告と相談
 6月24日(火)(幕張インターナショナルスクール:既定)
 6月27日(金)(浦安市立入船北小学校:断念)
 6月29日(日)(モリシア リニューアルイベント:相談)
 7月19 or 21日(土 or 月祝日)(八千代:未定)
 8月21日(木)(千葉県教育委員会経由での相談:未定)
 - ・前回会議議題への追加議論
5. 提案／意見
 - ・HumanBeatBoxerTARO より(欠席のため伝言)
 - ・一大ダブルダッチスクール様より
 - ・フリー
6. 閉会
7. 座談会

議事録

3. 前回超会議の振り返り

①連携とシェアについて

- 県内の連携だけでなく他県協会との横のつながりも有益ではないか
→愛知県協会にて「定番デモ」と同じ考え方のデモが作られている
- 古賀先生の KYOAL も参考になる(練習の有無を呼びかけ、共有する FacebookPage)

②外部への露出機会をつくっていく

- 各団体によってスタンスは異なるが「定番デモ」に類するものを用意しているケースも多く、そのデモで外部からの依頼に応えていることもある。
- 千葉県の団体の活動が不透明
⇒CDDA のページにチームやサークルの紹介ページがあるので是非利用して欲しい。

※JDDA とのつながり(JDDA と CDDA の関係・位置づけ)について

- ①②の課題を議論する中で前提として JDDA と CDDA の関係についての確認があった。また、JDDA が認可するインストラクター制度の現状についても議論がなされた。
- CDDA は JDDA の呼びかけによって設立し、JDDA 傘下の県内組織と位置付けられているが、事業活動は独立しており、資金面の援助も、JDDA 内部での権限も与えられていない。事業活動は独立しているが会費を取り収入を確保することは禁じられている。
- CDDA は外部からの出演等依頼に対して、JDDA 公認インストラクター資格の有無を問うておらず、また、そもそも CDDA は JDDA インストラクター派遣業務を行うことは出来ない。

※JDDA の行う公認インストラクター資格制度そのものの是非についての議論にも波及

- 資格取得しても JDDA から派遣の紹介が 1 度もなかった。それどころかボランティアに駆り出されただけだった。ただ、強いて言えばそこで横のつながりを得られたことはよかった。
- CDDA として無資格者の派遣(紹介)におけるリスクはないのか
→依頼者側のニーズによってことなるが、公認インストラクターの派遣料を高いと判断する団体も多く、また、そもそも資格の有無は一般の方にとってそれほど影響力がないのではないか。
- 資格そのものに魅力を感じないプレイヤーが多いため、資格を取得しても更新しないプレイヤーも多い。
- JSDDL も 2012 年以降学生が受ける外部からの依頼に対する活動に対して報告義務を課している。

4. 課題

- ・今年度活動内容の選定(定例会とチャレンジダブルダッチ in ちばの開催以外での案)
 - 合同練習会のようなものは有意義である
→合同練習会は定番デモ作りもセットにした 3 回パックが実施されるとのぞましい。千葉県内での横のつながりを作るきっかけとしたい
 - 練習だけでなく、外部で講習会などを受ける場合のノウハウ共有の合同研修会なども必要
→「ダブルダッチを教える」「体験させる」だけでなく、その後も依頼団体の中でダブルダッチの活動が継続してもらえるような講習会を実践できるスキルを身に付ける。コミュニケーション能力、進行や盛り上げ方、子どものリーダーシップを引き出すような、ダブルダッチ以外のスキルが大事。
(JDDA 公認インストラクター資格の有用性に対しても再度疑問を示唆)
 - ダブルダッチバトルイベントも行いたい。→やればできる
 - 中学や高校への進学、大学卒業後など競技継続が困難になる時期に対しての受け皿作り
→高校で部活動化するにはハードルがある。高体連の存在があれば後押しになる可能性が高い
 - ダブルダッチをする中で私利私欲のために近づいてくる関係者もいるので注意が必要

- 練習の場づくりが必要。
 - 練習しても怒られない場所情報を集めて共有するのも良い。柏など行政の許可をとれる場所も存在する。
 - 場づくりに関しては同じ場所で継続することが重

- 外部からの依頼に関する報告と相談

- 外部からの依頼については後日各団体様と調整し、いずれも対応できる方向で調整中

- 前回会議議題への追加議論

- 「3」の議論も受けて、CDDA が外部からの依頼に関する問い合わせを受けた場合は
 - 1.JDDA のインストラクター派遣を紹介する
 - 2.先方が JDDA の値段で高いと判断すれば CDDA で相談に応じることとする。

5. 提案／意見

- HumanBeatBoxerTARO より(欠席のため伝言)

- 千葉のハコであれば安くやらせてもらえるように取り図れる。是非千葉の Club シーンでもダブルダッチやりましょう。応援します。

- 一大ダブルダッチスクール様より

- 安価な運営費で活動している(運営費を上げたくない)
- 世界大会を目指すのではなく、ハードルの低いスクール運営の意義
 - 小さな大会、一部の種目だけでも賞がもらえるのはモチベーションになる
- 専属のコーチがないのは課題

- フリー

- 柏なわとびクラブでは会費1000円を使って他ジャンル含めた一流のパフォーマーとの交流に充てている
- ダブルダッチはお金がかかる delight も CONTEST もインストラクターもコーチもとにかく高い
 - 一般的な競技に比べ競技活動に大きな金銭的負担がかかることが、部活の設立や普及の際にも理解が得られにくい一因となっている。

以上